

コンチェルト

第4回 仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門:2010年 5月22日~6月6日

ピアノ部門:2010年 6月13日~6月27日

2009.11.10 Vol.4-4

Concerto
The 4th simc Volunteer News

電話インタビュー

新日本フィルハーモニー交響楽団 コンサートマスター

西江 辰郎さん (Tatsuo NISHIE)

— ヴァイオリンを始められたきっかけは？ ヴァイオリンに対する想いなども聞かせて下さい。

両親の影響で、物心ついたときからヴァイオリンと触れ合っていました。幼稚園までは、皆が普通に弾いているものだと思っていましたよ(笑)。

ひとつのことに取り組むことや研究、探求することは、自分でもとても好きなことのひとつです。

僕は留学中に、ヴァイオリンの先生に「君は今の技術があれば大抵の曲は弾けるだろう。けれど、ただ弾けてもそれが何になるんだ？」と尋ねられたことがあります。非常に考えさせられました。つまり、「これは敵わなくても、これだけは人に負けない」というものを自分のなかで持て、ということです。音楽の強さだったり、深さだったり、音色の多様さだったり…。ただ沢山の曲が弾けてもなんの意味もない。一曲でもいいから「意味のある演奏をしろ」と。

— 第1回ピアノ部門優勝者、ジュゼッペ・アンダローロさんとのデュオCDが発売されましたね。

今回のCDでは、ジュゼッペと「カプースチンをやろう！」ということになり、メインにカプースチンのヴァイオリンソナタを組みました。カプースチン氏は、現役のジャズピアニストで作曲家です。それに“ジャズ”つながりで、ラヴェルのヴァイオリン・ソナタ1927(第2楽章にブルースを取り入れている)、という具合。

選曲について言えば、僕の場合はまず“軸”となる曲を決めることが多いです。まず弾きたい曲があって、関連のある曲を探したり、「どういった演奏会にしたいか」という方向性を決めて、全体の構成を考えるようにしています。

2作目のCDで取り上げたプロコフィエフの第2番のソナタにも思い出があって…はじめてこの曲に取り組んでいた時、先生に厳しく叱られた経験を持つ曲で…一度レッスンに持っていったきり。(1ページ目で叱られてレッスンは終わり！)

トラウマになったのか10年くらい放置していました。それなのに周りの方から「あの曲合うよね」とか「聴いてみたい」という声が(笑)。「じゃあやってみるか！」という気持ちになったのがつい最近。

— 仙台国際音楽コンクールに携わって、感じたことを教えてください。

僕が仙台フィルで携わった時のコンクールは、同年代の出場者も多く、おかげさまで世界中に友人が増えました。ジュゼッペも、コン



(C) 鈴木加寿彦

クールで予選から一緒にしたし、コンクール事務局の主催事業でも共演させていただきました。

世界中で音楽を学ぶ人たちが一堂に会して演奏をする…そんな機会を目の当たりにできることは、本当に素晴らしいことだと思います。

僕自身、勉強になったことが多くあります。出場者の演奏を聴き、見て、感じて、「どうしたらこんな表現が出来るのか」とか、「(演奏者によって)どこが、どのように違うのか」という手段を考えたり…とても刺激になりました。しかも、それをとても間近で盗むことができたわけですからね。面白かったです。

— 演奏の楽しみ方や聴き所について、お考えを聞かせてください。

曲の背景や細部について知ることが、解釈の手助けになるのは間違いないですが、僕はそれ以上に「感性」を大切に聴いていただけたらと思っています。同じ演奏会で、同じ曲を聴いても感じ方は千差万別だし、「聴き所」というのは決してテクニク的な面のみ意味するものではない。誰かの意見や情報にとらわれず、素直に聴いて、感じてほしいです。難しく考えず、シンプルに自分が受け取ったままに感じてもらえればいいと思います。細部を熟知していること、音楽を知っていることは別だと思っています。

— 演奏のときに心がけていることは？

曲と向き合うときは楽譜から読み取れることを何通りか考えて、変化を大切に表現をするということを心がけています。作曲者が必ずしも意識していないことも、演奏家の新たな発見によって、新しい表現が生まれることもありますから！

— 演奏のときに、いつも赤いあご当てを使われていますが？

確かに好きな色ではあるし、多く持っていますが…。「必ず！」というのではなく、他の色を使うこともありますよ。ジグザグ的なものを決めてしまうと、それがなかったときに大変なので(笑)。

— 今後、挑戦してみたいことを教えてください。

やりたいことは、本当にいろいろあって…例えばロシアで演奏会をしたい、編曲に取り組みたい、ヴァイオリンを創ってみたい…アルゲリッチと共演したい！ 挙げればキリがないですね。でもどんなことでも、自分自身が強く「そうしたい」と願えば、形は少し変わったとしても、必ず近いことができると思っています。まず第一歩は「思うこと」からなのかもしれないですね！

★電話インタビューのため互いの顔も見えない状況でしたが、西江さんは体験談や例え話も交えながら、いろいろとお話してくれました。本当にありがとうございました。



「KAPUSTIN」
(FOCD3510)

♪ マスタークラス 開催決定！

仙台国際音楽コンクール期間中、初の試みとして、審査委員の先生方によるヴァイオリン・ピアノのマスタークラス開催が決定しました。マスタークラスとは、一流の音楽家が指導する上級音楽セミナーのことです。

コンクールの審査のために来仙される審査委員の先生方。この先生方のレッスンをマンツーマンで受けられたら、素敵だと思いませんか？

講師をして下さる先生は、右の審査委員紹介でお名前に(M)マークがついている先生方で、1人1時間のレッスンをして下さる予定です。また、レッスンの様子は公開され、どなたでも聴講が可能です。

世界の第一線で活躍される先生方の音楽を学ぶチャンス！ぜひご参加下さい。

- ・受講は申込制(2/25締切)です。また演奏を録音したCD等による選考があります。
- ・聴講料金は1,000円(学生500円)です。(3/12チケット発売予定)

♪ 第4回仙台国際音楽コンクール審査委員のご紹介

第4回コンクールでは、ヴァイオリン部門・ピアノ部門合わせて、9カ国から22人の審査委員をお招きします。

ヴァイオリン部門



審査委員長
宗 倫匡 (M)
英国王立音楽院教授
・名誉会員

審査副委員長

岡山 潔

トーマス・ブランディス (M)

審査委員

シュミエル・アシュケナージ (M)

ローランド・ドガレイユ

堀米 ゆず子

金 永旭 (キム・ヤンウク)

オレグ・クリサ

盛 中国 (シェン・ツォングオ)

パーヴェル・ヴェルニコフ (M)

クシトフ・ヴェグジン (M)

日本
ドイツ

アメリカ

フランス

日本

アメリカ

アメリカ

中国

ロシア

ポーランド

ピアノ部門



審査委員長
野島 稔
桐朋学園大学院
大学教授

審査副委員長

植田 克己

日本

審査委員

ブルーノ・カニーノ

イタリア

ベルント・ゲツケ

ドイツ

クラウス・ヘルヴィッヒ

ドイツ

姜 忠模 (カン・チュンモ)

韓国

ヨヘド・カプリンスキー (M)

アメリカ

小山 実稚恵

日本

パーヴェル・ネルセシヤン

ロシア

ピョートル・パレチニ

ポーランド

ジャック・ルヴィエ (M)

フランス

☆審査委員の方々の詳しい情報は SIMC のホームページでご覧頂けます。

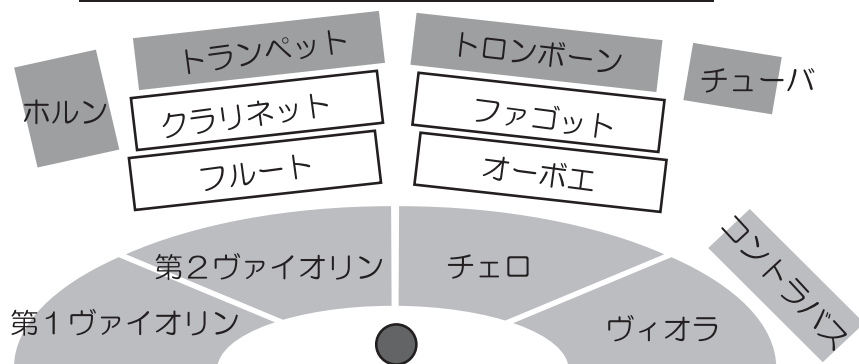
解らないのは… 調べ隊！ その一 楽器

コンクールの出場者が使用している楽譜。じっくり見たことがありますか？コンクールでは「協奏曲」を中心に演奏します。協奏曲の楽譜…じっくり見てみたら、出版社によって楽器の表記が違ふ。初心者の方が「あれ？これは？」と疑問に思った楽譜の「？」を調べてみました。

オーケストラには、たくさんの楽器がありますが、同じ楽器なのに違う読み方をしています。オーケストラの配置図を元にわかる範囲で楽器名を調べてみました。

楽器名	英語	イタリア語	フランス語	ドイツ語
ヴァイオリン	Violin	Violino	Violon	Violine/Geige
ヴィオラ	Viola	Viola	Alto	Bratsche
チェロ	Violoncello	Violoncello	Violoncelle	Violoncello
コントラバス	Double Bass	Contrabasso	Contrebasse	Kontrabass
クラリネット	Clarinet	Clarinetto	Clarinette	Klarinette
フルート	Flute	Flauto	Flûte	Flöte
オーボエ	Oboe	Oboe	Hautbois	Oboe/Hoboe
ファゴット	Bassoon	Fagotto	Basson	Fagott
イングリッシュホルン	English Horn	Corno inglese	Cor anglais	Englisches Horn
トランペット	Trumpet	Tromba	Trompette	Trompete
トロンボーン	Trombone	Trombone	Trombone	Posaune
チューバ	Tuba	Tuba	Tuba	Tuba
ティンパニー	Timpani	Timpani	Timbales	Pauken

パーカッション



(曲によって楽器編成が異なる場合があります)

Tromba って書いてたら、トランペットだなんて思いませんか。作曲された年代や出版社によっても楽器の表記が変わります。私たちが「ピアノ」と呼んでいるピアノ … Piano (英・仏) Pianoforte (伊) Klavier (独) と呼び方は様々、でも、素敵な音は変わりません。

楽譜を見て、疑問が次々に出てきました。また調べ隊！



♪ 仙台国際音楽コンクール ボランティア活動紹介

コンクールを支えるボランティアの登録人数は、現在 300 名を超えています。活動は大きく4つに分かれ、部門ごとに準備・運営、また、専門家を講師に迎えての講演会や研修なども随時行っています。

ここではボランティアの大まかな活動内容と、各代表者の方からのお話をご紹介します。

【会場運営サポート】156 名

仙台オーディション、コンクールの本選、関連イベント等の受付や場内案内、物品販売など、お客様に接する活動を行います。

○会場運営サポートボランティア 杉山敦子さん

世界規模の音楽コンクールの手伝いを少しでも出来たらと思い登録しました。会場運営の仕事は、直にお客様に接する仕事です。コンクールを楽しみにいらっしゃるお客様方の嬉しそうなお顔を拝見しているだけで、こちらの気持ちも温かくなり、それだけでやりがいを感じます。「ご苦労様」、「演奏良かったわよ」と声をかけてくださった時には笑顔も倍増します。ボランティア意識の高い仲間とお客様の笑顔に出会えたことが一番印象に残っています。



【ホームステイ受け入れ】49 名

コンクール出場終了後に仙台滞在を希望する出場者のホームステイ受け入れを行います（日本人出場者も対象）。

☆2010 年1月に2次募集をする予定です。

○ホームステイ受け入れボランティア 加藤新一さん



ホームステイボランティアをすると自分の知ることのできない文化交流ができる、と思ったのが登録のきっかけです。自宅に外国の方を迎え入れる事ができることにやりがいを感じます。印象に残っているのは、ホームステイにきた方が私宅に着くなりフランス

の母へ電話をした時のことです。泣き声で通過できなかったことを告げ、この日一日はあまり何も話さずじまいでした。次の日落ち込んでいるのかと思ったら、けろっとしていてびっくりしたことを思い出します。



クライバー classic music cafe kleiber

～クラシック音楽が流れるお店 No.2～

棚から選んでリクエスト — CD その数4,000枚以上！



■この扉を開けると、定禅寺通りの賑やかさから一転してコーヒーの香りとクラシック音楽の世界に包みこまれます。そしてオーナーの石垣さんが静かに待ってしてくれます。

■シンプルなテーブルとすっぽり身を沈められるソファの置かれた室内にはオーナーこだわりの音響機器が配置され、澄んだ音色を響かせています。両サイドの壁には女性画家の絵が掛けられ、目からも癒される思いがします。そこは、あたかも俗世から一瞬隔離される空間と化します。



【広報宣伝サポート】30 名

コンクール関連情報紙「コンチェルト」を発行し配布するなど、コンクール開催を広く周知する活動を行います。また、コンクール出場者向けに仙台を紹介する「滞在のしおり」（日本語・英語）を制作します。

○広報宣伝ボランティア 三田雅子さん

1 回目のコンクールの折に、当時の IV ネットワークに在籍していたこともあり、ボランティアとしてのノウハウが少しでも役に立つならと参加させてもらいました。一人でも多くの方がクラシック音楽に親しんでいただ



ることを願って活動しています。コンクールを知り会場に足を運んで頂き、日常のひと時、心の安らぎや充実を感じて頂けることにやりがいを感じます。「滞在のしおり」を片手に移動していた出場者を見かけた時、嬉しくなって声をかけてしまったことが印象深い思い出です。

【出場者サポート】100 名

コンクール期間中に開催される関連事業や練習会場での通訳を行います。

企画担当 出場者の休憩スペース「交流サロン」で仙台滞在をサポートする情報の提供、日本文化の紹介などを行います。

音楽担当 出場者を迎えて開催するミニコンサートの企画運営、練習施設情報提供などを行います。

○出場者サポートボランティア 企画担当 千葉周平さん

クラシック音楽の大きなイベントに参加するというのが面白そうだなと思ったのが登録したきっかけです。ボランティア活動でのやりがいは、新しいことに取組み、創り上げていけることです。コンクールが開催されるまでの企画が問題なく動いて、みんなが楽しそうに活動している現場の様子が印象に残っています。



○出場者サポートボランティア 音楽担当 武内園子さん

音楽が大好きで、仕事でも携わっているの、自分を高めるためにやってみたくと思ったのが登録のきっかけです。仲間と意見を交換しながら一つ一つ創り上げていくことや、いつの間にか自分に出来ることが増えていくと気が付いたときに、やりがいや喜びを感じます。ピアノを勉強中の息子に出場者が「音楽を一生続けてください。音楽は美しいものだから。」とメッセージをくれたことが印象に残っています。

■なんと言っても圧巻は、天井まで届くこの CD ラックです。4,000 枚以上の CD が作曲者毎に整理されて並んでいます。聴きたい曲のリクエストも OK、解説もお願いでき初心者には嬉しいことです。又、カウンターではオーナーに音楽のお話を聞くこともできます。そのお話の中で「楽都仙台の文化としても、好きなクラシック曲を気軽に聴ける空間がもっと欲しくてここを開いたんですよ。」と言われたことが印象的でした。



仙台市青葉区国分町3丁目4-5 クライスビル地下1階
市営地下鉄勾当台公園駅下車、公園2出口から徒歩5分
022-214-1036 営業時間 13:00 ~ 22:00 (毎週木曜日定休)

山形交響楽団 ～食と温泉の国のオーケストラ～

第4回コンクールでは、仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団による室内オーケストラでヴァイオリン部門の予選が行われます。そこで、宮城のお隣の県、山形で活躍する山形交響楽団についてご紹介します。

1972年に山形県出身の指揮者村川千秋氏により東北地方では初めてのプロ・オーケストラとして誕生しました。

東北六県ならびに新潟県での演奏会や1987年からはサントリーホール、浜離宮朝日ホールなどでの東京公演を行うなか、「音楽は心の学校」という信念のもと、「生の音楽を鑑賞する機会を児童生徒にも」とスクールコンサートを開催するなど教育活動にも尽力されています。

活動の功績が認められ数々の文化賞を受賞する中、2001年には30年間に及ぶ学校対象の演奏会等の音楽教育普及活動が評価されサントリー地域文化賞、2007年に地域文化功労者文部科学大臣表彰を受け、名実共に日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立しました。

毎年6月に東京オペラシティで「さくらんぼコンサート」を開催するほか、『生誕251年目からのモーツァルトはザルツブルクではなく山形で…』と題して交響曲全47曲を8年間(年3回全24回)かけて紹介する、モーツァルト交響曲全曲演奏定期演奏会「アマデウスへの旅」も今年で3年目を迎えるなど、オリジナリティ豊かな活動も行っています。

また、オーケストラとしては日本初となる自主CDレーベル「YSO live」を立ち上げ、各方面から高い評価を得ている他、音楽監督の飯森範親氏と山形交響楽団が出演した映画「おくりびと」が第81回アカデミー賞外国語映画賞を受賞するなど、華やかな話題もあり注目のオーケストラです。

Yamagata Symphony Orchestra

山形交響楽団 第201回定期演奏会 「ポーランドからの俊英」

2009年12月19日(土) 午後7時開演
会場：山形テルサホール
指揮：ミハウ・ドヴォジンスキ
曲目：シベリウス：交響曲 第2番
二長調 作品43 他

第4回仙台国際音楽コンクール 申込者数・予備審査結果速報！

2010年の5月から6月にかけて開催される第4回仙台国際音楽コンクールでは、10月1日に申し込みを締め切り、40の国と地域から430名の申し込みがありました。10月末にCD等による予備審査を行った結果、220名が予備審査を通過して、来年の1月に世界6都市で開催されるオーディションに望むことになりました。

○申込者数・予備審査通過者数

		第1回	第2回	第3回	第4回
申込者	ヴァイオリン部門	157	148	131	144
	ピアノ部門	143	162	191	286
	合計	300	310	322	430
予備審査通過者	ヴァイオリン部門	96	105	100	106
	ピアノ部門	94	96	113	114
	合計	190	201	213	220

第4回仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門

2010年5月22日(土)～6月6日(日)

ピアノ部門

2010年6月13日(日)～6月27日(日)

会場：仙台市青年文化センター コンサートホール
(仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5)

○オーディション ☆オーディションは一般に公開されます(無料)。

開催都市	ヴァイオリン部門	ピアノ部門	会場
ニューヨーク	2010年1月7日	2010年1月8日	ジュリアード音楽院/ポール・リサイタルホール
モスクワ	2010年1月11日	2010年1月12日	モスクワ音楽院/ラフマニノフホール
ベルリン	2010年1月14日	2010年1月15日	ベルリン・フィルハーモニー/ヘルマン・ヴォルフホール
ウィーン	2010年1月16日	2010年1月17日	ウィーン国立音楽演劇大学/オーケストラ スタジオ
パリ	2010年1月18日	2010年1月19日	モーリス・ラヴェル音楽院/ラヴェル・ホール
仙台	2010年1月30日・31日	2010年1月24日・25日	仙台市青年文化センター/コンサートホール

編集後記

○西江さんのインタビューは1時間超え！穏やかな口調ながら、音楽へのまっすぐで強い思いを感じるお話でした♪(松)
○1年半ぶりに風邪をひきました…。インフルエンザでなかっただけよかったですが…みなさまも体調にはお気を付けください。(曾)
○クラシックのボランティアしてます私。実はサルサ習っています。ダンス楽しいです。ワルツも踊って

みたい…と思っています。(栗)
○コンチェルト初参加でドキドキしています。12月は第九特別演奏会に参加します。コンクールボランティアも、合唱も、全力で頑張ります！(村)
○カフェ「クライバー」にはコンクールの課題曲CDがほぼ揃っています。忙中閑に絶好のお薦めスポットかと。(三)
○久しぶりにCDのジャケット買いをした。いつも見慣れた樹氷原をこんな形で手にとるとは何だかワクワク

した。(香)
○和気あいあいとしたミーティングにも落とし穴があります。そこで一句、「俳句どう？言い出しっぺから書くハメに」。次は皆さんの番ですよ～！(事務局・水上)
○デザインが一新されたコンチェルト。新しいメンバーの皆さんも加わって新しい風が吹いています。これからの展開を楽しみにしています！(事務局・海野)

コンクール
伝え広める
コンチェルト
(水)
吟じます

発行：第4回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

問合せ：(財)仙台市市民文化事業団コンクール推進課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: http://www.simc.jp/